

たんぽぽ子ども食堂通信

奈良・西ノ京「たんぽぽの家」が運営する子ども食堂のお知らせです。

2021年7月
第3号

発行
たんぽぽ子ども食堂



たんぽぽ子ども食堂
代表 家令 牧

「食べる」ことはいのちの原点 ～たんぽぽ子ども食堂が目指すもの～

たんぽぽ子ども食堂は、学校でも家でもない、子どもにとっての「もうひとつの居場所」です。また、さまざまな人との出会いを体験でき、豊かな価値観を育むことができる場所でもあります。

そして、誰の目も気にすることなく、

SOSを出せる場所でありたいと思っています。「しんどいから助けてほしい」と思ったときに誰でも利用できる、また小学生が一人でも気軽にご飯を食べることができる、そんな「地域の子ども食堂」をこれからも目指します。

子ども食堂 設立当初を振り返って

2017年5月に始めた子ども食堂も、今年で4年になりました。

コロナでこの1年は活動が制限され、お弁当配達という対応に変わっていますが、最初の理念は変わらず持ちながら、これからも続けていくことができたいと思っています。

当時子ども食堂を立ち上げるときに協力していただいた、六条地区の主任児童委員をされている丸山栄子さんと前田恵美さん（元児童委員）に、4年前を振り返っていただき、インタビューに答えていただきました。（以下、敬称略）

Q：お二人が子ども食堂に参加しようと思ったきっかけは？

丸山：当時は子ども食堂があちこちで設立されたころで、主任児童委員の研修会でも取り上げられていました。そんな中で家令さんとの出会いもあり、私たちでもお手伝いできることがあればと二人で参加しました。「地域の子どもの様子を知ることができればいいなあ」という思いもありました。

Q：この活動で苦労したことはありましたか？

丸山：苦労はなかったですね。ただ、夕食の時間でしたので、家庭の食事の時間と重なっていましたし、仕事を終えてから行くので、なかなか子ども食堂のためだけに時間を取れなくて。

前田：残念だったことは、一度来てくれた子が、献立が大人向けで食べられないからとその後来てくれなかったことです。あの時はカレーとかハンバーグみたいな子どもたちが喜ぶ献立がもっとあればなあと思いました。



最初の活動拠点だった六条山カフェ



立ち上げ当初のボランティアスタッフ

Q：子ども食堂で一番印象的だった出来事は？

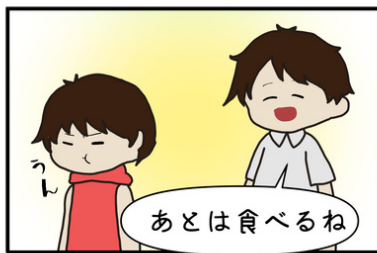
丸山：子ども食堂で出会った子どもたちに学校や地域の中で会ったときに「あ、子ども食堂の人やー」って言われたこと。小学校のオープンスクールに出かけた時も、二人で教室を回ってみんなの元気な姿を見られたときはうれしかったです。

Q：この活動に関わって良かったと思ったことはありましたか？

丸山：子どもたちがニコニコ笑顔で過ごすところに一緒にいられて、良かったです。また、ボランティアの佐藤さんや林さんはじめ、子どもたちのためにと来てくださる地域の方々を知り合えたことは、本当にありがたいことです。

一口食べよう

作：ばばちゃん



ご寄付のお願い

たんぼぼ子ども食堂では、お米・お菓子・缶詰・乾物・野菜 などのご寄付を大募集しています。

賞味期限まで1カ月以上あるものでお願いします。

たんぼぼ子ども食堂
家令（かれい）まで
奈良市六条西3-25-4
電話：0742-40-1040

Q：お二人にとって、子ども食堂はどんな場所でしたか？

丸山：もっと関わりたいなと思いながら中途半端になってしまって、いつか仕事も引退したらもう一回行きたいです。

前田：私たちは子育てが一段落したところでしたので、小さな子どもたちやちょっと年上のお兄ちゃんお姉ちゃんたちと過ごせる楽しい時間でした。一緒に宿題をしたり、今時のゲームの話とか、ついていけないこともありましたが、刺激になりました。若返ったかな！



簡単
美味しい
子どもたちに
大人気の
メニュー！

サバの味噌煮の作り方

■材料（2人分）

サバ …2切れ
＜調味料＞
味噌 …小さじ1
しょうゆ…小さじ1
砂糖 …小さじ1
酒 …小さじ1
みりん …小さじ1
土生姜 …小さじ1
水 …カップ1/4

■作り方

1. 土生姜を千切りにする
2. 鍋にすべての調味料を合わせていれ、サバが重ならないように入れる
3. 中火で10分程度落とし蓋（クッキングペーパーでも可）をして煮る



ボランティアスタッフ紹介



芝 結美乃
(大学2年生)

私は西の京高校
在学中に先輩から
の紹介で参加しました。金曜日になると「今日はみんなに会える！」と楽しみで仕方がありませんでした。

みんなが「遊ぼ！」と手を引っ張ってくれたり、ご飯中に今週学校であったことを教えてくれたりするこ

ともそうですが、子ども食堂以外でも別のボランティアで六条小学校に行ったり、登下校中に会ったり、気づいて手を振ってくれることがとてもうれしかったです。

私も大学生になり忙しく、またこのご時世もあり、あまり参加できていないのですが、早くみんなと笑顔で食卓を囲みたいです。



上出 裕子
(主婦)

来し方を振り返る年齢になって、しみじみ思います。今を生きる子どもたちは、本当に頑張っているなど。そして、子どもたちの邪魔をしない大人でありたい。学校でもない、家庭でもない、

もうひとつの居場所。さまざまな年齢の人たちが集う場所。素の「わたし」が出せる場所。この場所で過ごした経験が、これからの人生を生きる力につながると信じています。

これからも、そんな想いで関わられたらと思います。

空家、空スペース大募集

たんぼぼの家での会食形式の子ども食堂は、現在開催できていません。たんぼぼの家にはコロナの感染リスクが高く、また感染した場合、重症化する可能性のある方が暮らしているからです。子どもたちがいつでも集える場所はありませんか？

